

URE SUJI

意外と多い同境時代の孤独死

「何でもやりませ」をモットーに引越した屋敷を始め、不用のりやキッチン廃棄物処理なども手付けながら、遺品の整理に困っているお宅。いためにそれをも引き受けるようになった。2005年に「キーパーズ」を設立し、それから、これまで扱った数は1000件を超える。社長吉田太一さんは、こう語る。

「819割は、独居高齢者の遺品整理です。一人暮らしして働く男性は意外に若く、同境世代後の55歳から65歳までの人が多い。自分が高齢でいう意識がないから具合が必要でもなかなか病院に行かないし、周りもあまり気が付かない。同境時代は社会的認知が世代だといわれていた事が、持ち家も仕事も家もなくて、身元だけの付き合いもほとんどない人も多い。結局、やむを得ず親族が遺品

まるでゴミ虫の如かでした」

浴槽の中でじくじくしていたニースもある。発見されるまでの時間が経っていたら、茶褐色の濁った液体の中を遺体から剥がれ去るような皮膚が剥いて、そこには驚かすほど、何日も放置していたラントナーという化粧品。死後1年3ヶ月も経たなかった遺体はミイラ化して、ヘドロのような残留物は手やぐとこはいいが、腰や床を覆い尽くしているゴミやゴミ溜まら始めている。自治会や警察、消防が来た。遺族は、強要死や死因が引けることもあった。それでは、オンパレードを手に、気合を入れて現場に突入する。遺品が準備していった痕跡、現状を含めての遺品整理履歴、現状を照らすのも道具を取り戻す仕事なのだ。

「孤独死の人は、奥に好する事情がきっかけで見つかります。現場に行くとき、遺族は近所の人々に助けを立られてますから、私たちが積極的に行くという感覚なんです。まずは、引越して元のサレステとしてスワッチしたの、死後現場は想死がした。でも、絶望の淵に立たず人が助けを求めるといって、「できません」とは言えない。もう一つ、何や、これだ」と思っているならら



記念写真や人形、釣りざお、食器、霜古したスーツ……。故人の人生が染み込んだ品々を集め、価格を叩いて合同供養を行う。その模様は写真で依頼者に伝えられる。

●お話 吉田太一さん
代表取締役
●取材 木村博美



今回のヒットメーカー
キーパーズ有限公司

売れすじ

「夫夫婦で、慣れていますから」と平気な顔をして、すべて口直しの処していき、本当に泣いているからと、心からありがとうと言ったまま、それについているが、いざ、もとして下し上げたという気持ちになるので

心の重荷を軽減するサービス

日々の仕事を書いた吉田太一さんのブログが好評で、1昨年出版した「遺品整理屋はた」も話題を呼び、再版第2弾も出る。孤独死を防ぐために自ら制作したDVDの無料配布も行っている。「従来の遺品整理も、遺品を不用に代行することによって、人間を不用にしてしまっている。お金の声や声のロゴや本物の反響が現代社会に必要な事である自信がある。同時に孤独死があっても飽くまで現実をどうにかしたいという、DVDを独居高齢者に私が目の当たりに、Dト、大事に独居高齢者に伝えて、ちょっとショックを受けていた。いて、孤独死の予防をしまえればと、それで価格が減つていきます」

「最近では、遺品整理の生前予約をする高齢者が増えています。自分の葬儀などの準備を始めていくもの、いっけん準備しているのが遺品整理、誰が引き付けてくれるのか、子供たちが迷惑をかけたくなるといふ頃は、目撃も口を替えて、これでは、と見せつけ、しゃべりながら、依頼があれば全国どこへでも出張して行く。遺品整理についての希望を記す項目を加えたエディン・ノートも無料配布。各営業所で定期的に開催している遺品供養会「心の重荷を軽減してあげる」とも私たちの重要な仕事です。遺品はそれを廃棄物として処分すること、罪悪感を持つています。供養によって肩の荷物を軽く片付けてほしいと願っているだけで、遺品が整理されて初めて、人生の締めくくりができてほしいというのか。私には、ひとつの方法が心算なく天国へ行く事、お話をさせていたいでいいと思っています」



日本初の遺品整理サービス会社「キーパーズ」(本社・愛知県津市)が、少子高齢化や核家族化などを背景に業績を伸ばしている。サービスを始めたのは、5年前。今では、東京、名古屋、大阪、福岡に営業所をかまえ、年間2000件の依頼を受ける。孤独死、自殺、殺人事件……。どんな凄惨な現場でも断らないのが信条。遺品の分別、片付けから形見分けの配送、家財の撤去、搬出先のリサイクル、部屋の清掃・消臭作業、不動産の売却相談、遺品の供養まで、あらゆる要望に応えている。

別は電話もない。荷物は車の半分しかないケースもあれば、4トントラックが何台も必要なゴミ屋敷やゴミマンションでして来た人、少ない。自殺の事件に巻き込まれたたりた現場で遺体、キーパーズへ、依頼が現場で搬送されたあの部屋だ、それもソコソコよいうな発音が待っている。

死因、ウジ虫、ゴミキリと格闘

「一服を飲み倒すよ、死亡原因が、布団や世の上にも赤かた茶色のドロみたものがある、亡くなるとは、大抵のほとんど人間になつて残っている、肉体が腐敗して、体液と脂肪が腐敗したものが外に出てくるんです。死後1ヶ月の独居老人の部屋に、男を出して、掛け布団の一部まで変質し、男を出して、と、無数のウジ虫出現がこめいてた。